

六〇年六月開催のとき以降のことでした。

なお、本学では、この開学記念祭とは別に学内の諸文化団体がそれぞれに開催する「文化祭」がありました。それらについては、一九五四年以降、秋の好シーズンにまとめて文化祭として行なわれるようになっていきます。

本書では、名大祭について取り上げたいと思います。その際、なぜ名大祭が一九六〇年という時期に誕生したのか、その後四〇余年の名大祭のあゆみはどのようなものであったのかなどについて触れてみたいと思います。過去の名大祭との比較を通じて、今日における大学祭の意味を歴史的に考察する際の手がかりを提示するのが本書のねらいとなっています。

一、愉快な名大祭

◆第四三回名大祭―「飛翔」

二〇〇二（平成一四）年六月五日から九日にかけての五日間、名古屋大学東山キャンパスに

において、第四三回名大祭が開催されました。名大祭本部実行委員会の集計によると、期間中の来場者数は四万人に達したとされています。この数字は、二〇〇一年度開催の第四二回名大祭の来場者数を一万人も上回るものだそうです。

第四三回名大祭のテーマは「飛翔」でした。これは、一三四件の一般応募作品のなかから最終的に学内一般投票によって選ばれたテーマです。このテーマには、次のようなメッセージが込められていました（『第四三回名大祭パンフレット』）。

「どこまでも青い大空を自由に飛びまわりたいと思ったことはありませんか？」

きつと大勢の人が夢見たことがあると思います。……（略）……そもそも私達は何故、

空をとぶことにこうも憧れてきたのでしょうか？……（略）……私達の上に広がっているこの大空にも、いまだ私達の知らない無限の可能性が秘められているのではないのでしょうか？……（略）……名大祭も同様、私達にとって無限の可能性を持ったものだと考えられないでしょうか？つまり、名大祭では様々な企画が催されます。そしてその中にはきつと自分にとって良かったと思えるもの、おもしろいと思えるものもあるはずですよ。しかし、そのような企画を見つけたのはあくまで自分自身であり、逆にいえば自分次第で名大祭はいくらでもおもしろいものになるのです。……（略）……大空を自由に飛びまわるとい



第43回名大祭オープニング・セレモニー（名大祭本部実行委員会提供）

夢を、名大祭という大空で現実のものにしてみませんか？

無限の可能性を秘めた大空「名大祭」で、参加者それぞれが自分なりの「飛翔」を繰り広げる―これが第四三回名大祭の基本概念であったといえます。そして、実際の名大祭では、この基本概念のもとで、次のようなさまざまな企画が展開されたのです。

◆さまざまな企画

名大祭パンフレットの目次をみると、開催期間中に行なわれるさまざまな企画が一〇のジャンルに分けられていることがわかります。「プレ企画」「ステージ・イベント」「飲食・販売」「学術系企画」「展示・展覧」「スポーツ」「芸

第43回名大祭「研究公開」一覧（開催日順）

〈6/5〉

貧困撲滅：21世紀の挑戦

〈6/7〉

環境を守り生活を支えるプラスチック／植物の形作りを探る／誰でもわかる糖鎖生物学／身近に存在する放射線／地球水循環研究センター研究室公開／電子顕微鏡H U-2をめぐって／循環型社会の実現を目指して

〈6/8〉

環境医学研究所研究室公開／光で見る宇宙と地球／塵から生命の惑星へ／東海地震・東南海地震／素粒子物理学を身近に体験しよう／環境を守り生活を支えるプラスチック／人間と森林の共生の道を探る／資源植物の構造と機能の関係を探る／生命現象を化学で探る／ビタミンCの新たな生理機能／糖尿病原因遺伝子の同定／「小さな」人工世界が造る「大きな」びっくり／リチウムイオン2次電池の仕組み／現代の錬金術—プラズマプロセス—／無線通信システムに関する研究紹介／生命科学の新しい展開—生体分子の立体構造から機能の解明・推測へ／多元音響情報の総合的理解／量子エネルギー工学展／マイクロマシニング～シリコンで作る微小機器～／法学部生による無料法律相談／日本経済の課題／マインドコントロール防衛対策／磁石になる有機分子／土木展

〈6/9〉

太陽活動と地球環境／年代測定総合研究センター研究公開／謎の粒子ニュートリノ／生命と金属の関わり合い／分子生物学の最前線／生命を解く・測る／リチウムイオン2次電池の仕組み／量子エネルギー工学展／法学部生による無料法律相談／古書と江戸文学／古典古代の思想を考える

（『第43回名大祭パンフレット』より作成）

能・上映」「音楽」「趣味・占い」「学術」というジャンルです。名大祭本祭の期間（六月五〜九日）に先立って行なわれる「プレ企画」では、本祭に負けず劣らずの有名企画（「徹夜でスケート☆二〇〇二 フライデーナイトフィーバー!!」「仮装行列二〇〇二」など）が開催されました。

なお、「学術系企画」と「学術」の違いは、後者が名古屋大学にある研究所・研究センターや各大学院・学部の研究室が日頃の研究内容を紹介する「研究公開」などを中心とした企画であるのに対して、前者は有志団体があるテーマを設けて行なう研究会・研究会や講演会などの企画となっている

点にあります。

こうした一〇ジャンルの企画は、開催主体の違いに応じて、名大祭本部企画、名大祭一・二
年生実行委員会企画、有志企画の三種類に分類することができます。

◆名大祭本部実行委員会企画

第四三回名大祭では、本部実行委員会が行なった企画（本部企画）が一六企画ありました。
本部実行委員会では、「多くの名大生が参加する名大祭」「参加者に親切な名大祭」という目
標を掲げて、これらの企画を行なっています。

たとえば、プレ企画としての「フライデーナイトファイバー」や鶴舞キャンパスでの「医学
部公開二〇〇二〜医次元への招待〜」の開催、また、オープニング企画「Opening
Ceremony ☆2002 ☆」をはじめ、豊田講堂前特設ステージを中心に行なわれる「Stage
Rhythmic 02」「宴〜UTAGE〜」「26th THE GREEN FESTIVAL」「風夜祭」などのアトラ
クション、講演企画などが本部実行委員会によるものでした。

このうち講演企画では、飯島澄男名城大学教授による最先端のナノテクノロジーに関する学
術講演のほか、就職対策関連講演「イケてるっサラリーマン!!」や青空講演「空想科学的青
空教室」が行なわれています。

◆名大祭一・二年生実行委員会企画

名大祭では、本部実行委員会企画のほかに一・二年生実行委員会が行なう企画があります。第四三回名大祭では、プレ企画として「仮装行列2002」「第一回総長杯争奪相撲大会」、本祭企画として「Sports Festival'02」「名大生白書」「DAY TIME CLUB」「名大寺」「天下一遊闘会」「合唱コンクール」など一一の企画が一・二年生実行委員会によるものでした。

このうち「仮装行列」は、第一回名大祭から行なわれているもので、名古屋市中心部にある白川公園とその周辺をパレードします。また、「名大生白書」は、一九七九年から発行されているもので、毎年さまざまなテーマを設けて名大生にアンケート調査を行ない、その結果などを冊子にまとめて名大祭の期間中に無料配布するものです。いずれも名大祭恒例の名物企画として知られています。

◆有志企画

名大祭では、これまで紹介した二つの企画（本部実行委員会企画、一・二年生実行委員会企画）とは異なる企画があります。「有志企画」と呼ばれている企画です。この企画は、実行委員会以外の学内・学外の団体が一定の参加手続きを経たのちに行なう企画です。原則として、「有志企画」の責任者は名古屋大学の在学生または職員であることが求められます。しかし、

第43回名大祭「有志企画」一覧（順不同）

占いの小部屋（愛知学院大学運命学研究所）／アカベラ（アカベラバンドM）／体感ゲームβテスト（アマチュア無線研究会）／Open Cafe（EXEXEX）／アニメ上映会&セル画展示（A.M.I）／平和の世界展（SGI女子学生部）／もったいない心（LH陽光研究所）／雷太鼓（オペレッタ）／名大よさこい祭り（快踊乱舞）／オルゴール・からくり・ロボット展（からくりフロンティア研究所）／芸音学会2002（芸音学部）／名大祭公演（劇団新生）／ポストとペット（劇団バックスの水族館）／ソロモンよ私は帰ってきた！（座部）／ゲーム（シミュレーションゲーム研究室）／アメリカの「対テロ戦争」は正義か？（社会科学研究会）／部展（名大写真部）／Club Space Shana（Shana Club）／占いの森（椋山女学園大学易学研究会）／Street Champion 2002（ストチャン実行委員会）／展示会（生物研究会）／日韓友好会（第三文明研究会）／名大祭演武会（名大合気道部）／アカベラライブ"Rising"（名古屋アカベラサークルJP-act）／第28回名大祭茶会（名大裏千家茶道部）／新作自主映画会（名大映画研究会）／第36回ファイヤーストーム（名大応援団）／名大祭演武会（名大空手道練成会）／マジック☆ショー！（名大奇術研究会）／第15回クイズ名大カップ（名大クイズ研究会）／Live House Riverside やまや（名大軽音楽部）／CCA（名大原理研究会）／名大祭演奏会（名大古楽研究会）／第40回名大祭茶会（名大茶道部）／なごすい水無月の宴（名大吹奏学部）／天竜浜名湖鉄道（名大鉄道研究会）／星くずに照らされた道（名大天体研究会）／彩展（名大美術部）／ライブ喫茶PUTINA（名大フォルクローレ同好会）／Best of SBF Sounds（名大放送文化研究会）／生ステ（名大放送文化研究会）／DJ喫茶cafe de fiesta（名大放送文化研究会）／オリジナル漫画展示（名大漫画研究会）／名大テニストーナメント（NUTS）／International Music and Dance（NUFSA）／NUSOUL（N.U.SOUL）／青空公演（人形劇サークルどんぐり）／牛肉販売（農学部動物管理学研究所）／名古屋哺乳類研究会講演会（農学部動物管理学研究所）／ボランティアフェア（Piglet）／考古学研究集会（文学部考古学研究室）／心理展（文学部心理学研究室）／星空映画会（文化サークル連盟）／化工展（分子化学工学科院生会）／2002年名大祭公演（民族舞踊団おんぶ）／模擬病院（名大医学部鶴舞祭実行委員会）／LIVE SPOT "PENT HOUSE"（名大医軽音）／サークルフェスティバル（名大観世会）／水彩画展示（名大水彩部）／タテ看（名大水彩部）／作品と世界のメガデモ展示（名大デジタル創作同好会）／豊田講堂コンサート（名大ピアノ同好会）／ライブハウス（名大フォークソング同好会）／「対テロ戦争」は正しいか？（名大理学部自治会執行委員会）／ラガドーンクエスト（ラガドーンタバーン）／名大寄席（名大落語研究会）／「ピカピカは光る」「信じれば見える」（楽知ん研究会）／青空麻雀大会（リカちゃんチョンボ!!）／DIVE!!（LIT's）／六団合同合唱祭（六団合同合唱祭）

※（ ）内は企画団体名を示す。

（『第43回名大祭パンフレット』より作成）

これらの学内団体の企画に支障をきたさない範囲で、学外団体が名大祭への参加することも認められています。

第四三回名大祭では、およそ九〇団体によるさまざまな有志企画が行なわれていました。これらの企画のなかには、ファイヤーストーム（大学応援団）、名大祭茶会（茶道部・裏千家茶道部）、クイズ名大カップ（クイズ研究会）など多数の恒例企画が含まれています。

◆エコツアー企画

名古屋大学では、「ごみ減量化宣言」を行ない、一般廃棄物（しみ）の発生抑制（reduce）とその分別回収の実施によってごみの再利用（reuse）や再利用（recycle）を促進する取り組みを行なっています。エコツアー（スタンプラリー）企画は、第四一回名大祭から実施されるようになった新しい企画の一つです。

このエコツアーでは、学内のエコポイント（廃棄物処理施設、中間処理施設、リサイクルステーションなど）を訪ね、ごみ問題への知識を深めることで、環境にやさしい生活の促進をめざしています。

◆「愉快な名大祭」の舞台裏

これまで本章では、二〇〇二年度開催の第四三回名大祭について簡単に紹介をしてきました。名大祭は、本部実行委員会や一・二年生実行委員会が中心となつて企画立案・実施される点で、いわば〈学生の学生による学生のための名大祭〉といつてもよいでしょう。そうしたことから考えると、名大祭は、何よりも主人公である学生自身が積極的に参加できるものであることが求められるといえます。また、名大祭が広く一般市民に公開されるという点からみると、単なる自己満足のみにならない内容の企画を提供することも同時に求められることとなります。

第四三回名大祭パンフレットにある本部実行委員会委員長のあいさつ文には、次のような一節があります（『第四三回名大祭パンフレット』）。

過去四二回の歴史の中で名大祭は様々な変遷を辿りました。当初は、名大祭における活動が名古屋大学における学術活動の発展や社会の発展に寄与するものとされていましたが、現在はそのような理念が消失し多少なりともイベント化してしまつた感が否めません。しかし私は逆に第一回から変わっていない部分もあると思つています。それは名大祭の開催による「非日常空間」の創出です。……（略）……「非日常の空間」である名大祭において皆さんが今まで知らなかった自分を発見したり、従来とは違つた考えかた・価値観を発

見することで自分の中の新たな可能性をきつと見出すことができるでしょう。

ここには、今日の名大祭が、四〇余年の歴史のなかで、当初の理念を失ってしまったということが指摘されています。では、名大祭の当初の理念とは、どのようなものであったのでしょうか。次章以降では、いわば名大祭の原像を確認しながら、その変遷のようすについて述べていきたいと思えます。

二、名大祭の誕生

◆各学部文化祭・体育祭の統一

名大祭は、一九六〇（昭和三五）年に初めて開催されました。記念すべき第一回名大祭は、名古屋大学主催・名大祭実行委員会主管という形式で、同年六月三日（金）から六日（月）にかけての四日間、鶴舞キャンパスおよび東山キャンパスをおもな会場として開かれています。